

# S-100

塗装マニュアル



本書はS-100の塗装や塗り替え時の素地調整について記載しています。きれいな仕上がりが得られ、十分に性能が発揮できるようマニュアルに従って塗装されることをお勧めします。

ご使用される前に必ず最後までご一読下さい。

品名：樹脂エマルジョン

成分：合成樹脂（アクリル・ウレタン・シリコン）、酸化チタン、シリカ（アモルファス）、防カビ剤、水

塗り面積：88㎡/16kg（2回塗り）

#### ■用途

ログハウス、ウッドデッキ、バルコニー、ベンチ、雨戸、羽目板、板壁などの未塗装木部  
ラティス、トレリス、プランターなど未塗装のガーデン用木製品など

※絶えず水がかかったり、水に浸かるところやいつも湿っているところ、また頻繁に歩行する床面には適しません。

#### ■使用方法

##### 1. 新設の場合

（A）標準塗装仕様

塗装仕様1（一般の場合）

工程	使用塗料	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )	次工程まで の間隔 (h)	塗り回数	
1	素地調整	汚れや埃を取り除き、ヤニや油分はペイントシンナーで拭き取り良く乾かす。 表面が荒れているときはサンドペーパー(#180~#240)をかけて平らにする。			
2	下塗り	S-100	0.14	2以上	1回目
3	上塗り	S-100	0.04	-	2回目

#### 注意事項

1. 次工程までの間隔は気温 20℃の場合。低温時は適宜延長する。
2. 下塗りが濡れている状態で、上塗りはしないでください。
3. 塗布量確認のため色見本と比較し、色が薄い場合は塗り重ねてください。
4. 基本的に塗布量を管理しやすい工場塗装を推奨します。  
特に、施工後複雑な形状となる、垂木あらわしのなどの場合は塗りムラをさけるため、軒天と、垂木を部材毎に塗装してからの施工が必要です。

## 1. 素地調整

- 汚れや埃はウエスやブラシ等で清掃する。
- 油汚れやヤニが出ている場合、ペイントシンナーで拭き取る。ヤニの塊は金属ヘラ等で取り除いた後ペイントシンナーで拭き取る。油汚れやヤニの拭き取りが充分でない場合、吸い込みムラを生じ仕上がりが悪くなることがあるので注意する。表面が荒れているときはサンドペーパー（＃180～＃240）をかけて平らにする。
- ペイントシンナーで拭き取ったときはよく乾かす。
- 素地が湿っていると色ムラや塗装不良の原因になるので十分に乾かす。（含水率18%以下）

## 2. 塗装方法

①素地調整を十分に行う。

※上述の「1. 素地調整」に従ってください。

※他の塗料が塗装されている場合は塗れません。旧塗膜を充分に取り除いてから塗装してください。

②本品が付着して困るところは、あらかじめマスキングテープなどで覆っておきます。

※床にこぼれると滑りやすくなりますのでしっかりと養生してください。

③ふたを開ける前に容器を逆さにしてよく振り動かして塗料を均一にし、必要量を口の広い容器に移します。

※使用中もときどきかき混ぜてください。

④薄めずに、塗装は水性刷毛を使います。広い平面の場合はコテバケを使用すると早くきれいに塗ることができます。

※十分な性能を発揮させるには塗布量と浸透が重要です。特に1回目の塗装時は、下地に吸い込ませるようにたっぷりと塗ってください。

※塗り過ぎには十分に注意してください。乾燥遅延やべた付きなどの支障がでる場合があります。

※ローラー、スプレーなどはムラになりやすいため十分注意してください。

⑤塗り重ねる場合は、夏期は2時間以上、冬期は5時間以上乾燥させてください。マスキングテープは塗料が手につかなくなったら剥がします。

## 2. 塗装後のメンテナンス（塗り替え）

S-100は、日光や降雨により色あせてきたら塗り替え時期です。日光が当たる南面か日陰の北面か、雨の直接かかるかどうか等、塗装した箇所の条件により劣化の程度が大きく変わります。

### ◎塗り替え時期の目安

- ・汚れがひどくなったとき。
- ・色あせして、白っぽくなってきたとき。
- ・撥水性が低下して水をはじかなくなったとき。

### ◎塗り替えの塗装仕様

- ・新設の場合の塗装仕様に準じて行う。

### ◎素地調整

#### S-100の既塗装面

- ・汚れや埃はウエスやブラシ等で清掃する。水洗可能な場所は水洗した後十分に乾燥させる。
- ・油汚れやヤニが出ている場合、ペイントシンナーで拭き取る。ヤニの塊は金属ヘラ等で取り除いた後ペイントシンナーで拭き取る。
- ・カビやシミは市販のカビ取り剤・漂白剤で取り除いた後水洗し十分に乾燥させる。
- ・表面の劣化が目立つ場合はサンドペーパー・ブラシ等を用いて劣化部分を取り除く。

#### S-100以外の一般塗料の既塗装面

- ・S-100は吸い込みのない材には塗装ができない。水をかけてみて水を吸い込まない場合は塗膜を完全に除去する必要がある。電動工具・サンドペーパー・塗料剥離剤等を用いて水が吸い込むようになるまで旧塗膜を取り除いた後、S-100の既塗装面と同様に素地調整を行う。
- ・旧塗膜が完全に剥離しており、水をかけたときに水が均一に吸い込む場合は、S-100の既塗装面と同様に素地調整を行う。

### ◎塗り替えのポイント

- ・上塗りすることにより色が塗り替え前より濃くなる。必ずどんな色になるか試し塗りをする事。
- ・初めに塗った色と異なる色を塗ることもできる。ただし色ムラが生じやすい場合があり、最初の色より濃い色を塗った方が、ムラが目立ちにくくなる。

## 3. 用具の手入れ方法

使用した用具は乾かないうちに、新聞紙かボロ布でできるだけ塗料を拭き取り、水か湯で洗ってください。

#### 4. 取扱い上の注意

- 表示の用途以外に使用しないでください。また、塗装方法に記載の注意事項もよく読んでから使用してください。
- 食器など直接食べ物が触れるところやテーブルなど長時間皮膚が触れるところには塗らないでください。
- 病人、妊婦、乳幼児、薬剤によってアレルギー症状やかぶれ等をおこしやすい方、特異体質の方がいる場所では取り扱わないでください。
- 犬小屋や鳥カゴ、その他ペットなどが舐めたり、かじったりするような木部には塗らないでください。
- 塗料が金魚や鯉などの魚類がいる池に入らないよう、また、草木などの植物にかからないよう注意してください。
- 塗料が河川、池、下水道に入らないよう注意してください。
- 塗料がすでに塗られている面や化粧合版には塗れません。
- 塗料がついても支障がない服装で作業をしてください。
- 塗装中、乾燥中とも換気をよくしてください。
- 素地調整は十分に行ってください。
- 素地の乾燥は十分に行ってください。部分的に湿っていると色むらになることがあります。
- 塗布量が少ないと耐候性など十分な性能が発揮できないので標準塗り面積を目安に塗装してください。
- 塗装後は6時間以上水がかからないように養生してください。
- 塗装時及び乾燥するまでの間、降雨が予想される場合や、気温5℃以下または湿度85%以上になることが予想される場合は塗らないでください。
- 均一になった塗料の見かけの色は、表示の色と異なって見えることがありますが、標準塗り面積を塗装し、乾燥した後は表示の色ようになります。
- 下地の色や吸い込みの度合いによって仕上がりの状態や色、乾燥性が大きく左右されますので、予め目立たない部分で必ず試し塗りをして、色・浸透性・下地への影響を確かめてから塗装してください。
- 木肌が滑らかでも1回目の塗装が十分乾燥した後、塗装表面にザラツキが生じた場合はサンドペーパー（#320程度）を軽く当ててから2回目を塗ると滑らかに仕上がります。
- 塗り面積・乾燥時間・着色力・色相などは、素材・塗り方・気象条件等により多少異なります。
- 塗装後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- 容器は塗料を使い切ってから捨ててください。
- やむを得ず塗料を捨てる時は、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分してください。
- 床面に塗った場合、雨などで濡れているときや靴下のまま歩いたり、履き物の種類によっては歩行の際に滑りやすくなりますので十分に注意してください。
- 塗装したウッドデッキなどの床面と屋内を靴下で頻繁に出入りすると、屋内床面にシリコン成分が移行し、滑りやすくなってしまふことがありますので、塗装後の床面は専用の履物を使用してください。
- 塗装したウッドデッキの床面などで、塩化ビニル製品（子供用プールやレジャーシートなど）をご使用された場合、可塑剤が塗装面に悪影響を及ぼす場合があります。
- 塗料中の水分により木材内部の難燃剤が溶解し、塗料や塗膜に異常が生じますので、難燃木材及び不燃木材への塗装は避けてください。

### ■救急処置

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けてください。

### ■保管方法

- 直射日光を避け、施錠して保管すること。
- -5℃以下の場所を避けて保管すること。
- 残った塗料は、必ずフタをし、幼児の手の届かないところに保管し、子供が誤食・誤飲・いたずらをしないよう注意してください。

### ■危険表示



遺伝性疾患のおそれ

水生生物に毒性

長期的継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性